

家庭環境が幼児の読書能力に及ぼす影響

村野 亜子

読書能力とは、狭義には書かれている文字・記号から意味を正確に、早く理解する能力であり、広義には楽しんで読む能力も含まれる。この「楽しんで読む能力」に関連する概念として、読書のレディネスと想像力があげられる。

読書のレディネスとは、読書能力に関するレディネス（準備性）のひとつであり、読書を楽しむことに対する準備状態を指す。

想像力とは、目に見えないものを思い浮かべ、想像で作り出した世界を自分の現実に行うことができる力であり、想像力を豊かにするうえで、読書を楽しむことは必要不可欠であると言われている。

これらに関する研究課題として、以下の3点があげられる。第1に、日本で標準化されている読書レディネス・テストが古いため、現代でも使用できる読書レディネス・テストを作成する必要があるということである。第2に、具体的にどのような家庭環境が読書のレディネスの発達を促進するのか明らかになっていないことである。第3に、絵本接触と想像力の因果関係は明らかになっているが、その他の幅広い家庭環境と想像力との関係性は明らかになっていないことである。

以上より、本研究の目的を以下の3点とする。第1に、これまでに作成された読書レディネス・テストを参考にし、現代でも使用できる読書レディネス・テストを作成する。第2に、幼児の家庭環境と読書のレディネスとの関係性を検討する。第3に、幼児の家庭環境と想像力との関係性を検討する。

研究1では、第1の目的についての検討を行うために、これまでに作成された読書レディネス・テストの文献調査と面接調査を行った。まず、文献調査の結果をもとに「読字」「絵と文字の結合」「絵の指摘」「物語理解」「お話の構成」の5つを下位テストとして、読書レディネス・テストを作成した。そして、4、5歳児クラスの幼児を対象に読書レディネス・テストを実施した。面接調査の結果として各下位テストの問題毎、クラス別に正答率を求め、研究2で使用する問題を選択した。「絵の指摘」の問題は4歳児クラスにおいても正答率が高く、発達の様子を見ることができないと考えられたため、下位テストから除外した。

研究2では、第2、3の目的についての検討を行うために、4歳児クラスの幼児を対象に読書のレディネスと想像力の測定を実施した。また、同じ幼児の保護者に対して家庭環境に関する質問紙調査を実施した。

分析の結果、以下の6点が示唆された。第1に、一人読みを促進する読み聞かせを行うことと、読書のレディネス、特に読字やお話の構成の能力との関係性が強いことが示された。第2に、親が幼児を本屋へ連れて行く頻度が高いことと想像力との関係性が強いことが示された。第3に、昔話絵本の読み聞かせと想像力、特に近い未来の空想との関係性が強いことが示された。第4に、知識・科学絵本の読み聞かせと想像力、特に近い未来の空想との関係性が強いことが示された。第5に、あまり話しかけたりしないで書かれている文章をそのまま読むような読み聞かせ方と現実的処置の想像力との関係性が強いことが示された。第6に、家族との関わりの頻度と想像力との関係性が強いことが示された。

今後は、本調査と同様の内容の調査を複数の時点で実施し、幼児の家庭環境と読書のレディネス、想像力それぞれの因果関係を検討していくことが望まれる。

（指導教員 鈴木佳苗）